



野口神社 (御所市)



葛城山の東麓、葛城川の東、今も清水が豊かに流れる蛇穴という集落

に、野口神社は鎮座します。

祭神は神倭伊波礼毘古命(神武天皇)とその皇子の彦八井命です。社伝によると彦八井命の子孫の茨田連は仁徳天皇の時代、茨田堤を築き、後に蛇穴村へ移住し、祖神を祭ったといわれま

す。また蛇穴の野口家の先祖は茨田氏ともいわれます。野口神社には、野の神に豊作と農耕の無事を祈る野神信仰が残っています。

毎年5月5日の朝、境内に氏子たちが集まり、前日に作った蛇の頭部に、餅米のわらで約14分の蛇体を編みこんで完無形民俗文化財です。

祭りの由来として、次のような伝説があります。茨田長者の娘が葛城山に修行に通う役行者に恋をしたが、見向きもされず、蛇に化けて追いかけて火を噴いた。村人は味噌汁をぶっかけ、古井戸の中に蛇を追いつめ、岩で封じ込めた。

その娘の供養のため、祭事が行われたといわれています。

(奈良まほろばソムリエの会会員 平越真澄)

悲恋の娘 供養の「汁かけ」

- | | |
|-----------------------------------|------------------------|
| (住所) 御所市蛇穴540 | (交通) JR和歌山線玉手駅から徒歩約10分 |
| (祭神) 神倭伊波礼毘古命、彦八井命 | (拝観) 境内自由 |
| (文化財) 「蛇穴の蛇綱曳き」(汁かけ祭り) 御所市無形民俗文化財 | (駐車場) 祭事日は臨時駐車場あり。無料 |